

学校、授業者のニーズに応じた学力向上アドバイザーによる訪問支援の取組 ～ 甲佐町各小・中学校～

授業を参観した後、学力向上アドバイザーと授業者との間で振り返りを実施している。その際、課題に感じていること、話題となった内容をグラフ化し、ニーズに迫る支援を行っている。



※学力向上アドバイザー（県事業）は、課題の分析及び実態に即した改善方策の助言等、支援を必要とする学校や教員等への支援を行っています。

学校が伸ばしたいと思う「力」があります。児童生徒の実態、職員の構成等、学力向上を図るときの力点は、実態に応じて一校一校で異なります。

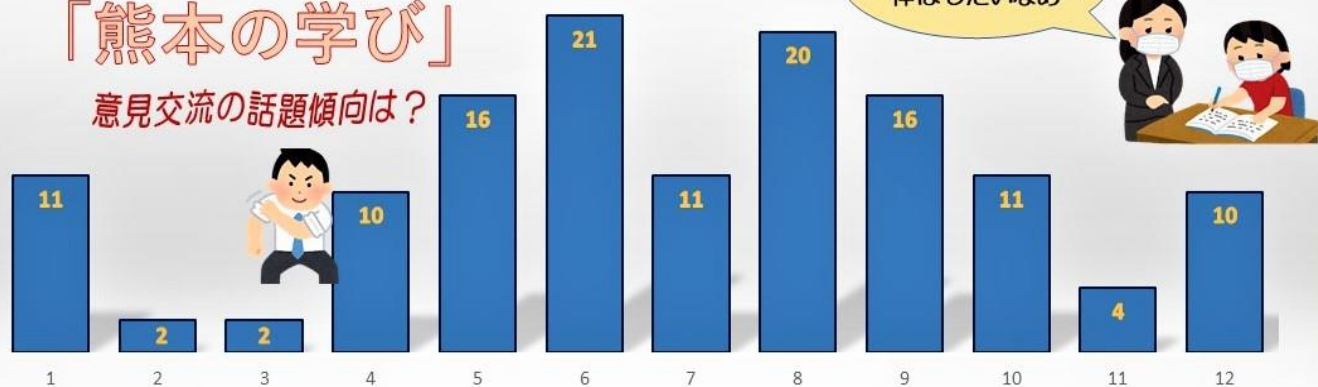
支援を受ける教員にも、それぞれ伸ばしたいと思っている「力」があります。

学力向上アドバイザーは、訪問支援の際に、相談や意見交換をした内容を整理し可視化するためにグラフ（下記参照）に表し、管理職とも共有しています。これにより、授業者が現在の課題を確認することができ、今後の展望をより明確に持てるようになります。学校、授業者のニーズに合った支援を行っています。

甲佐町小中学校

「熊本の学び」

意見交流の話題傾向は？



① 支持的風土・学びの風土の醸成
・考えを伝え合ったり協働的に解決している。

② 学習環境が整えられている「UD化」
・言葉かけが穏やかでどの子どもも安心して学ぶ学習環境となっている。

③ 単元のゴール
・学習終了時に単元の学びをみんなが共有している。

④ 単元全体
・「わくわく」など、知的好奇心や興味・関心を高めて学習に取り組んでいる。

⑤ 導入
・「なぜ」「おそろく」など、疑問をもったり予想したりして学習に取り組んでいる。

⑥ 展開
・「やってみよう」「なるほど」「さっと」など、挑戦して取り組んでいる。

⑦ 終末
・「ふかった」「できた」「もっとやってみよう」など、意欲を高めて学習に取り組んでいる。

⑧ 個に応じた指導
・自分の習熟度に合った課題に取り組んでいる。

⑨ 発問が適切で、思考を促している
・主発問を吟味し子供の思考を促すものとなっている。

⑩ 板書・ノートが構造的・効果的である
・思考の変遷や多様な考えがわかるような板書とノートの記録が残されている。

⑪ 教材・教具・ICTが効果的に活用
・教材、教具が児童生徒の考えを引出し、ねらいに沿って活用が図られている。

⑫ 考えをまとめ、発表表現する場がある
・相手意識をもって、考えたことを伝えている。

教育委員会が、授業者や管理職と指導・助言の視点や授業改善の方向性を共有し、継続して指導することで、外国語教育の授業力向上を目指す取組
～山鹿市教育委員会～

教育委員会所属の学校教育指導員による定期的な授業参観及び指導・助言を実施するとともに、管理職へ指導・助言の根拠や視点を情報提供することで、外国語教育の授業力向上を図っている。

10:58

先生たちの会話を聞いて → 友達と好きな食べ物を質問し合う

友人名のタブレットへのローマ字入力に個人差（国語の教科書を見て書いている児童2名）

○お手本となるペアを指名し発表させる
☆黒板やワークシートを見ることなく相手を見てジェスチャーを交えながら伝え合う姿見られた

◎次時の授業で必要となる事項に触れ、好きな色やスポーツについて考えさせチャンクに挑戦

友達の発表を聞いて参考にし再度質問し合う

時事の予告を聞き見通しを持つ

振り返りシート記入

11:15

まとめ

| <振り返りの視点> | | 自評 | AD |
|-----------|--------------------|----|----|
| 1 | 帯活動（実施・内容） | — | ○ |
| 2 | Small Talk（実施・内容） | — | ○ |
| 3 | 単元のCAN-DO・本時のめあて明示 | — | ○ |
| 4 | 目的・状況・場面をふまえた音声導入 | — | ○ |
| 5 | 本時に必要な語彙や表現の慣れ親しみ | — | ◎ |
| 6 | 本時の目標達成に向けた言語活動 | — | ○ |
| 7 | 評価（中間評価や具体的賞賛を含む） | — | ◎ |
| 8 | 振り返りまで45分で完了 | — | ◎ |
| 9 | 構造的板書・わかりやすい板書 | — | ○ |
| 10 | 授業者の英語発話量 | — | ◎ |

<全体の気づきなど>

前時は体育で、着替えや水分補給しながらも笑顔で挨拶ができ、立ち止まって挨拶する児童もいました。

「使いながら身に付けさせる」授業でした。やってみせ、やらせてみせ、気付かせ、修正をしながらより良くしていく過程が見えました。

英語を通して友達のことを知ることができ、「言えた」→「使えた」喜びが感じられました。

3学年の国語科で学習するローマ字についてはローマ字入力をするたびに遅れたり困ったりする児童のための手立てが必要だと思います。

学校教育指導員が小学校外国語専科及び中学校英語科の授業を定期的に参観し、指導・助言を行っています。

授業に対する気付きのほか、国・県からの資料を基に山鹿市の実態を踏まえた授業に関する「振り返りの視点」を設け、継続的に評価することで、改善の進捗状況を授業者や管理職と共有できるようにしています。

学校と行政が同じ視点で教員の授業力向上を目指し、外国語教育の授業力向上を図っています。